

団体名:フードバンクとちぎ

代表者名:古川 明美 事業規模簿:-万円 ボランティアスタッフ数…1人

施設配布先:13施設【児童厚生施設×2、児童養護施設×1(60名)、自立援助ホーム×2(37名)、授産施設×6(450名)、DVシェルター×1(40名)、教育施設×1(40名)】

活動地域:栃木南部(宇都宮より南)

住所:〒323-0822 栃木県小山市駅南町1-12-32 TEL:0285-27-5443

事業概要

フードバンクとちぎは、主に以下2つの活動を行なっている。

(1)福祉施設向けの食品の引き取り、配送

①定期的な食品の引き取り、配送

毎週土曜日によつ葉生活協同組合より食品(生鮮食品・冷凍食品等)を引き取り、児童養護施設等を中心に配送(H24.6~)、月1回マルハニチロより食品(缶詰)を引き取り、配送(H24.12~)

②不定期な食品の受け入れ、配送

セカンドハーベスト・ジャパン(以下、2HJ)及びフードバンク北関東(三松会)から紹介のあった食品を受け入れ、13施設に配布

(2)フードバンク活動の周知

①ホームページ(ブログ)によるPR

②雑誌(人権センター発行)等への記事掲載

③研修会等での説明

ポイント

【コンパクトなフードバンク形態】

定期的に提供して頂ける、よつ葉生活協同組合の寄贈品は、冷凍食品や生鮮食品が中心のため、温度管理に適している保冷バックを使用し、自家用車で配送をしている(寄贈元には確認済み)

このため、寄贈品の保存や加工が可能な施設でないと提供が難しく、現在児童養護施設と自立援助ホームの 2 施設を中心に提供しているが、少ない施設へ集中的に配送を行うことで、結果的に以下の 3 つのメリットがある。

- ①配送先が少なくて済む。大量の寄贈品の場合は施設に取りに来てもらって対応。
- ②少ない施設に多くの食品を提供することで、施設側でも献立に組み込むことができ、経費節減になる。
- ③コンパクトなフードバンクの形態ができたため、スタッフが少なくても効果的な活動ができ、活動の過程で配送方法など試行錯誤しながら改善を図ることが容易にできる。

取り組みの経緯

2008 年 1 月の「素敵宇宙船地球号」という番組で 2HJ が紹介されていたこと等によりフードバンクのことを知る。

後のメンバーの田中さんと仕事で繋がりがあった、現メンバーの古川さんが所属する人権センターで、フードバンクの講演会を行うことになり、その講演会で 2HJ の秋元前理事に話を伺ったことでフードバンクにより興味を持ち、地元でフードバンク活動をやりたいという話が持ち上がった。

2HJ や他団体から話を伺ったり、勉強会や実際にフードバンク活動を行って行く中で、これからも継続していきたいという思いを抱くようになり、NPO 法人立ち上げに至った。

以下、フードバンク活動経緯

- 2010. 3 小山市駅南児童センターにて「企業と NPO 協同のつどい」（フードバンクを紹介するイベント）を開催し、「とちぎフードバンク活動推進検討会」を発足
- 2010. 4 農山漁村 6 次産業化対策事業費補助金フードバンク活動推進事業受託（検討会、研修会、専門家助言・指導、資料作成に使用）
- 2011. 4 任意団体「フードバンクとちぎ」として活動開始 2HJ から不定期で食品支援を受ける
- 2012. 1 「フードバンクとちぎ」結成総会
- 2012. 2 NPO「三松会」（群馬県館林市）から不定期で食品支援開始
- 2012. 6 よつ葉生活協同組合（小山市栗宮）から食品寄贈開始（定期：週 1 回）
- 2012. 11 NPO 法人申請
- 2012. 12 マルハニチロ（倉庫：宇都宮市）から食品寄贈開始（定期：月 1 回）
- 2013. 1 NPO 法人認可

活動方針

フードバンクガイドラインを遵守する活動をしている。今後も県内にフードバンクを広げていきたいと考えており、寄贈品の品質管理や配送記録に留意し、利用者や第三者から信頼される団体となるよう取り組んでいる。

現在は実働スタッフが少なく、全てのスタッフがボランティアのため、定期的な活動は週末に行っており、時々不定期に平日に活動することもあるが、長く続けることを重視し、無理をせず出来る範囲での活動を心がけている。

施設の数、増やすことに力をいれずに今出来る範囲の施設に対してしっかりと丁寧な食糧支援の活動を行なっていく。

取り扱い量や寄贈者の理解が進むことにより、社会福祉の枠を超えて、地域交流の場や食育などでもフードバンクの食品を利用することなど、今後の可能性についても考えていきたい。

活動事例

月刊「部落解放」2012年8月号に法人を活用した地域活動の特集記事として掲載される。

提携食品企業

- (1) よつ葉生活協同組合（小山市粟宮）：週1回
- (2) マルハニチロ（東日本物流センター：宇都宮市）：月1回

支援の視点

フードバンクの理念に基づいた活動を行うため、現在は施設や団体等に活動の意義をしっかりと理解を得た上で、食品を必要としている人に提供している。

個人への支援は、現在の規模では個々の対応が難しいため行わない方針だが、先日個人からの問い合わせがあり、団体（反貧困ネットワーク）を経由する形で食品を提供した。

生活に困っている困窮者や食品を必要とする個人への支援を幅広く行いたいと考えているが、フードバンクとちぎとして対応できる範囲の中で、できることを継続するよう、客観性を持った視点で行うようにしている。

ネットワークの視点

フードバンクとちぎとして、細々と活動する団体にとっては、近隣の県や2HJとのネットワークがとても重要であると考えている。ただ、現在は寄贈品の量が他に回せるほど潤沢ではなく、受け取る一方になってしまっているのがとても心苦しい。

マルハニチロの寄贈品の缶詰は賞味期限も長く保管もしやすいため、他の団体に対しても提供できればと考えているが、まだ寄贈を受け始めたばかりなので、流れができてから考えたい。

成果と課題

2012年度は6月から定期的な活動がスタートしたが、11月末までの間によつ葉生活協同組合の寄贈品だけで751.2kgを提供しており、12月からのマルハニチロの寄贈分を考えれば、年間で1t（フードバンクとちぎのみの）を超える取り扱い量となる。

当初は支援企業もなく、先の見通しが全く立たなかった時期を考えれば、2社から定期的な寄贈を受けられるようになったことはそれだけで劇的な進歩であり、だけでも大きな成果であった。

また、2013年1月にはこれまでずっと懸案であったNPO法人の認可も得た。ただ、資金がほとんどなく、設備や人件費が捻出できないことから、現状では活動の幅がこれ以上広げられないことが課題である。

実績を積み重ねていくことによって新たなアイデアやチャンスが生まれ活路が見出せると考えており、焦らずマイペースで進む意向である。